

どめているのが、サントリー九州熊本工場近くの土手に佇む「花立地蔵」です。後光を表した地蔵の背後のてっぺん部分は反り出て、その背面を粗く削ってあるのが特徴だそうです。地蔵の表情は穏やかで、手入れが行き届いているのが分かります。

その日松本さんは、五色山登山口の椎ノ木池脇にある一丁地蔵の前掛けを新調しました。「こうしてお世話すると気持ち落ち着くんです。人は頼り頼られて生かされている、そのことを教えてもらって、気がします」と松本さんは言っていて、「また来ますね」と地蔵に向かって優しく声をかけました。

## 着物の姿の 艶やかレディース

飯田地区で「お琴教室」という看板を見つけた、藤本眞巳さん(53)を訪ねました。着物姿で迎えてくれた藤本さんは9年前に益城町に移住し、自宅で教室を開きました。「小5から琴を習い始めました。琴はみやびな音色やハープのような麗しい音も出ます。他の楽器とも競演して琴の世界を広げたい」と目を輝かせる藤本さんは、島田地区に住む同じ琴奏者の福田公子さん(64)と「和楽Ren」というユニットを組んで演

奏活動を行っています。

また、藤本さんは益城町文化協会副会長も務めており、同会では年に一度益城町文化祭を主催し、音楽や舞踊、工芸、習字などの作品展示など行っています。「楽しい発表の場として、多くの方にご参加いただきたい」と藤本さん。会の活動や入会については、益城町文化協会事務局まで問い合わせください。



明るくて行動力のある藤本さん



藤本さんのみやびな琴の音に心が癒やされます

続いてまたまた、色っぽい着物姿

で町公民館飯野分館の一室で日本舞踊を楽しむ女性たちに出会いました。飯田地区に住む姫野慶子さん(78)の舞踊歴は30年。週に一度、惣領1町内に住む川端ユイ子さん(76)や、御船町からやって来る古閑和代さん(71)とお稽古にいそしんでいます。

扇子のさばき方はもちろん舞と



名付けて「金曜日の舞踊家たち」。前列左から古閑さん、川端さん、後列は姫野さん

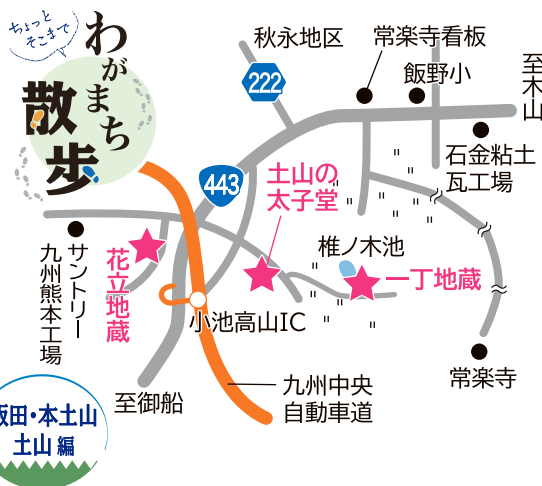


町公民館飯野分館で好きな日本舞踊を楽しむ皆さん

## 散歩の終わりに

飯田地区の散歩は2回目。「元気だったかい?」、「久しぶりね」とおなじみの顔にも再会しました。「ノーメイクだけ写真はいやあ」と笑って協力してくれた高木康子さん、焼き芋をごちそうしてくれた堀部貯さん、庭先でおいしいコーヒーを飲ませてくれた松本武廣さん。同じ町に暮らして生きて。古里はよかばかり。

この日の出会いに、感謝。



踊り、美しい一連のしぐさや、立ち回りは勇ましく、ベテランならではの貫禄ある舞です。「着物に着替えると気持ち引き締まります。それぞれが師匠で生徒。忘れた振り付けを教え合ったり、おしゃべりしたり。この時間が楽しみです」と姫野さんはほがらかに笑いました。